

令和 7 年度第 3 回宇部警察署協議会会議録

開催日時		令和 8 年 2 月 1 8 日(水) 午後 3 時 3 0 分から午後 5 時までの間
開催場所		宇部市常藤町 3 番 1 号 生活安全ふれあい館視聴覚室
出席者	委員	安光委員、白木委員、三次委員、村岡委員、平西委員 金子委員、桑田委員、塚原委員、薬丸委員、柳井委員 計 1 0 人
	警察署	署長、副署長、生活安全官、地域官、刑事官、 交通官兼交通総務課長、主幹、警務課長、警察安全相談課長、 留置管理課長、会計課長、生活安全課長、地域課長、 刑事第一課長、刑事第二課長、交通捜査課長、警備課長 計 1 7 人
議題		1 業務推進状況 2 大規模自然災害に備えた諸対策の推進
1 会長挨拶 平素より数多くの行事等を企画していただき感謝申し上げます。年末の親子ふれあいイベントには私も家族で参加し、音楽隊の迫力ある演奏を間近で鑑賞できるなど、子どもにも大好評の非常に有意義な内容であった。 本日の諮問事項は「大規模自然災害に備えた諸対策の推進」である。全国的に地震や台風、線状降水帯による被害が毎年のように発生しており、山間部の多い山口県では土砂災害等への備えも重要である。委員の皆様は地域住民の代表として、積極的に忌憚のない意見をお寄せいただき、警察署に対して効果的な提言を行いたいと思っている。本日はよろしくお願いする。 2 署長挨拶 省略 3 業務推進状況(署長) (1) 効果的な犯罪抑止対策の推進 (2) 少年の非行防止対策の推進 (3) 重要犯罪等の検挙対策の推進 (4) 交通死亡事故抑止総合対策の推進 4 前回協議「情勢に応じた合理的な交通規制の実施及び良好な自転車交通秩序実現のための取組」における提言への説明(交通官兼交通総務課長) (1) 市内の全中学校、高校に対する自転車教室 (2) 警察官を対象とした自転車教室		

- (3) 教育委員会と連携した保護者に対する広報活動
- (4) アプリ及び紙媒体を活用した広報活動
- (5) ふれあいセンターのモニター等を活用した広報活動

5 諮問事項協議

(委員)

被災時の避難等の観点から、警察は高齢者や障害のある方がいる世帯、地域の空き家等はどうのように把握しているのか。

(警備課長)

警察には巡回連絡という活動があり、地域警察官が受持区の各家庭を訪問して、世帯構成等の把握に努めている。

(委員)

私が関わっている認知症の独居高齢者で、既に家が半壊して崩れかかっているのに「死ぬまでここを離れない」と言って避難を拒否している方がいる。このような方を市や警察がどこまで把握しているかは分からないが、福祉事業者等が持つリアルな情報を吸い上げ、災害に備えて情報共有ができれば良いと思う。

(警備課長)

市と情報共有のうえ、参考とさせていただく。

(委員)

南海トラフ地震の津波到達予想時間がおおよそ 60 分と説明を受けたが、要介護認定を受けた高齢者は、自力で 60 分以内に避難することは難しい。このような災害弱者を想定した訓練も必要だと思う。また、福祉や医療関係の事業所は福祉車両を多数所持していることから、被災時の支援等で役立つ制度があれば良いと思う。

(警備課長)

災害対策基本法では、自治体が災害弱者を把握し、適切な避難計画を作成しなければならないと定められている。宇部市には災害危険地域に居住する災害弱者が 2,800 人いるとのことで、市の職員が各世帯を戸別訪問して、順次、避難計画を作成しているとのことである。市と情報共有し、今後の訓練等の参考とさせていただく。

(委員)

被災時の警察の役割は、避難誘導や交通整理、犯罪抑止のパトロール等だと認識している。ほかにも多岐にわたる活動があると思うが、行政との明確な線引きはできているのか。

(警備課長)

警察は、被災直後は人命救助等に関する突発対応が主な役割となり、その後の防犯パトロール等も警察にしかできない重要な任務である。避難先の整備や支援等は基本的に行政の役割となり、その辺りの線引きはされているが、有事の際は相互に連携し、補完し合って対応することとなる。

(委員)

大きな災害が起こると、必ず泥棒や詐欺を働く者が現れる。警察には突発対応のほか、犯罪の抑止や検挙も期待している。

(委員)

長期間の避難所生活では、窃盗や性犯罪等の様々な犯罪が起きると聞くが、避

難所に制服の警察官が常駐することはできないのか。

(警備課長)

基本的には立ち寄り警戒が中心であり、常駐勤務は難しいと思われる。

(委員)

大雨や台風等で道路上の倒木を目撃した際は警察に通報しても良いのか。道路管理者に通報した方が良いのか。

(警備課長)

道路上の倒木は緊急性があるので警察に通報していただきたい。現場を確認のうえ、必要があれば警察から道路管理者に連絡することとなる。

(委員)

以前に比べて道路の冠水が起こりやすくなったと感じる。特に厚南地区は海拔が低く、被害に遭いやすいと思うが、何か対策は講じているか。

(警備課長)

ご指摘の通り、ハザードマップでも厚南地区の広い範囲が津波、洪水等の浸水区域に当たり、水害による被害が想定される。災害対策は「自助・共助・公助」から成り立っており、中でも「自助」が最も大切だと言われている。住民一人一人が防災意識を向上させていくことが重要であり、そのために行政は様々な施策に取り組んでいるところである。道路の冠水については、多くの場合は排水機能の問題であるため、市が優先順位を付けて少しずつ改善を図っている。

(委員)

私は東日本大震災の時は東京におり、しばらくは携帯が繋がらず、避難場所も分からず皆がパニックになっていた。非常時でも、各自が冷静に判断して的確に情報収集できれば、二次災害による被害も減るのではないかと思う。

(警備課長)

まさに「自助」の話であり、平素からの備えと、被災時の臨機応変な対応が自身の命を守ることに繋がる。

(委員)

災害リスクの高い山間部や厚南地区を中心に、避難訓練等の必要性を感じる。

(警備課長)

市の担当者によると、訓練状況は地域によって温度差があり、山間部では熱心に取り組んでいる自治会が多い反面、市街地の自治会は人の集まりも悪く、訓練等が難航しているとのことである。

(委員)

私が勤める企業は従業員数が多く、被災時には支援等の協力を惜しまない考えである。企業が支援を申し出る際は警察に届け出れば良いのか。

(警備課長)

被災時のボランティア活動は社会福祉協議会が窓口であり、事前登録することで、有事の際は登録企業に連絡が入る仕組みである。

(委員)

私は毎年近隣の会社と合同で地震津波訓練に参加しているが、例年似たような想定での訓練であることから、訓練自体が形骸化してきていることを懸念している。本日伺った話を会社に持ち帰り、防災意識を高めていきたい。

(委員)

詐欺被害防止や交通事故抑止には分かりやすいスローガンがあるが、防災につ

いても「逃げ遅れゼロ」等のスローガンがあれば浸透しやすいと思う。

(警備課長)

市と情報共有のうえ、参考とさせていただく。

(委員)

災害警備本部移転訓練の説明では、ときわ公園の施設に移転する訓練を行っているとのことだが、なぜときわ公園なのか。市役所の方が施設も新しく、市と警察が情報共有もしやすいのではないか。

(警備課長)

本部移転は、警察署が被災して機能しなくなった際に行うものである。場所的に近い市役所は、警察署と同様に被災して機能しない可能性が高いと考えられるため、他の候補地を選定している。ときわ公園は、市街地でありながら高台に位置し、警察署から離れた位置にあるため、理想的な移転先の一つだと考えている。

情報共有に関しては、有事の際は互いに職員を派遣し合って円滑に情報収集を行えるよう、平素から訓練を行っている。

(委員)

被災時にはトイレ不足が問題になる。都心では被災時に公園のベンチが簡易トイレとして使えるような面白い試みもあると報道で知ったが、宇部市でもそのような施策を取り入れた方が良いのではないか。

(警備課長)

ご意見を市に報告のうえ、参考とさせていただく。なお、市内の各ふれあいセンターに、非常用の簡易トイレを1,000個以上準備していると聞いている。

(委員)

私は熊本地震で被災した経験があり、地震がきっかけで地元の宇部市に戻って来た。実際に被災した立場からすると、山口県は大きな地震がないことから、県民の防災意識が非常に低いと感じる。共助や公助も大切だが、やはり「自分の身は自分で守る」という自助の意識改革が重要であり、より一層の広報が必要だと考える。

特に防災グッズに関しては、世帯によって必要な物がまったく違うし、実際に使用した経験がないと、いざという時に使えないことも多い。お祭り等のイベントで特設ブースを設け、防災グッズの紹介や配布を兼ねたイベント等が有効ではないかと思う。

(警備課長)

市に報告のうえ、検討させていただく。

6 配布資料

- (1) 業務説明資料
- (2) 諮問事項資料